|  |
| --- |
| CSS2018電子投稿案内（2018/06/18版） |
|  |
| 情報 太郎†1　安全 花子†2 |
|  |
| **概要**：本稿ではCSS2018 における電子投稿要領について解説します．CSS2018ではオンライン投稿でのみ原稿を受け付けています．今後，予告なく情報が更新されることがありますので，投稿前に最新の情報をホームページにてご確認下さい． |
|  |
| **キーワード**：CSS2018，MS-Word，スタイルファイル |
|  |
| Instruction for CSS2018 Electronic Submission |
|  |
| Taro Jouhou†1　Hanako Anzen†2 |
|  |
| ***Abstract***: This document describes an instruction to submit a camera-ready version of your manuscripts for Computer Security Symposium 2018 (CSS2018).　All manuscripts must be submitted through an electronic submission form. This instruction is subject to change without notice. Please confirm that you are referring to the latest information in our site when you submit. |
|  |
| ***Keywords***: CSS2018, MS-Word, Style ﬁles |

# はじめに [[1]](#footnote-1)\*【\*の文字書式「隠し文字」】

　CSS2018 では，電子投稿によりご提出いただいた原稿にラベルやページ番号追加などの編集作業を行います．閲覧・検索・印刷などにおいて活用できるように，論文原稿には一定のフォーマットと制限が設けられています．原稿作成ならびに原稿提出にあたりご一読をお願いいたします．

　なお，CSS2016より，MS-Wordのテンプレートファイル（.dotx）を情報処理学会論文執筆キット[[[2]](#footnote-2)]に基づくあたらしいものに刷新しています[[[3]](#footnote-3)]．本稿では，そのテンプレートファイルを用いた論文の作成方法に関して示します．

本テンプレートファイルを利用した論文の作成方法などを情報処理学会に問い合わせることは**絶対に**ご遠慮ください．

# 投稿まで

　論文原稿の作成から投稿までの流れは，次の通りです．

1. テンプレートファイルの取得

MS-Wordによる論文作成キットについては，下記のURLから取得してください．なお，インターネットにアクセスできない方は，CSS2018事務局([css2018-system@ml.meiji.ac.jp](mailto:css2018-system@ml.meiji.ac.jp))に相談してください．

MS-Wordテンプレートファイル

https://www.iwsec.org/css/2018/stylefiles/css2018\_style\_word.zip

このキットには下記のファイルが含まれています．

* テンプレートファイル: css2018\_style\_word.dotx
* テンプレートファイルのメッセージダイジェスト値: css2018\_style\_word.mds.txt
* 作成した論文原稿例: css2018sample\_ word.pdf

また，提供するテンプレートファイルは，に示す通り，2つのセクションから構成しています．

(a)表題，著者名，概要(b)本文，謝辞，参考文献，付録

1. 原稿の作成

本案内にしたがってMS-WordファイルからPDFファイル（論文原稿）を1つ作成します．

　なお，原稿を作成する場合には，原稿の中から不要な箇所の文字書式を「隠し文字」とする方法を用いるとよいです(図 2)．

　「隠し文字」は印刷時に印刷対象外となるため，ページずれが発生する場合があります．なお，行末に「隠し文字」を設定していない空白文字を配置することで，印刷時のページずれを抑えることができます．



図 1　MS-Wordテンプレートファイルの構成

Figure 　The configuration of template file.

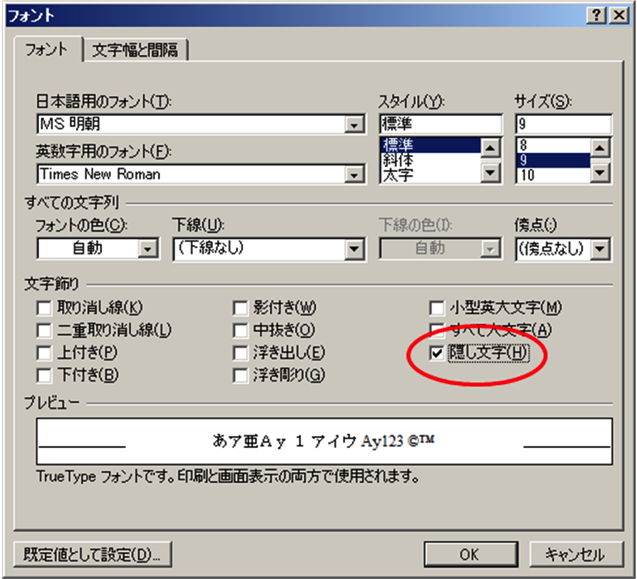


図 2　文字書式の設定

Figure 　Font Configuration: Hidden.

**著者名**

表題と概要の間に著者名を追加し，脚注に所属を追加してください．

**謝辞**

参考文献の直前に挿入してください．

1. 原稿とファイルの送付

　テンプレートから作成した論文原稿のPDFファイルをオンライン投稿します．投稿方法などについてはCSS2018ホームページの「論文投稿手引」にしたがってください．

# MS-Wordテンプレートファイルの使い方

## 一般的な注意事項

　テンプレートファイルをクリックすることにより，テンプレートファイルに沿ったMS-Wordの新規文書が作成されます．なお，本テンプレートファイルはその配布開始時点ではウイルスに感染していないことを確認済みです．しかし，その流通経路でウイルスに感染する可能性は充分存在します．よって利用者は本テンプレートファイルの取り扱い時にウイルスに対しても充分ご注意ください．ウイルスによるいかなる被害についても本テンプレートファイル作成ならびに配布者は一切責任を持ちません．

## ページ設定

　MS-Wordによる論文作成では，論文原稿のページ設定を1ページが26字×48行×2段=2,496字とし，情報処理学会論文誌用の設定と同一となるようにしている．このため，本テンプレートファイルでは，以下のようなページ設定を行っている．

1. ページの余白

ページの余白は，上：22mm，下：25mm，左：17mm，右：17mmとする．設定方法については，を参照して欲しい．

1. 2段組の「文字数と行数」

2段組の文字数と行数は，「文字数と行数を指定する」を選択し，文字数：26文字，行数：48行とする（参照）．

## MS-Wordの書式設定（スタイル）

　MS-Wordでは，文字列の書式設定（文字書式や段落形式など）をスタイルとして事前定義できます[[[4]](#endnote-1)]．本テンプレートファイルでは，論文作成支援用として表 1に示すスタイルを用意しています．例えば，該当する段落にカーソルを置いた後，スタイルの中から「#見出し1 IPSJ」をクリックすれば，この書式設定が段落に適用されます．

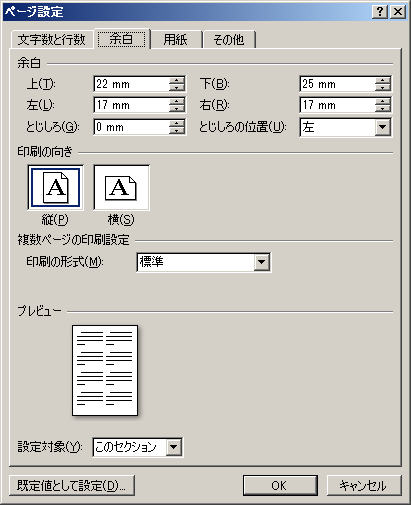


図 3　余白の設定

Figure 　Page Configuration: Space.

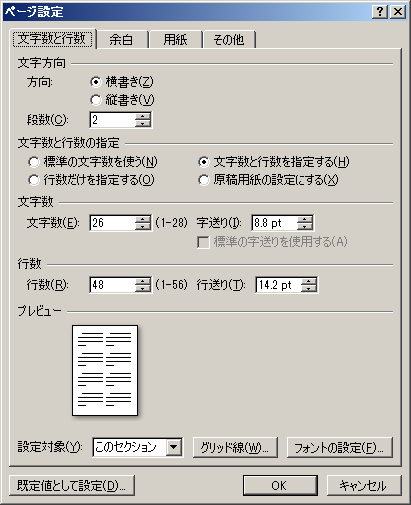


図 4　2段組の文字数と行数

Figure 　Page Configuration: Character and Line.

　概要へのスタイル「#概要IPSJ」適用を例に，MS-Wordにおける操作を紹介します．詳細な操作方法については，文献 [[[5]](#endnote-2)]を参照してください．

* [ホーム]-[スタイル] の右下ボタンをクリックし、[スタイル] ボックスの一覧を表示する（の(a)）．
* スタイルを設定したい段落にカーソルを選択する（の(b)）．
* [スタイル] ボックスの一覧から，設定するスタイルをクリックする（の(c)）．

表 1　本テンプレートファイルで用意したスタイル

Table 　Set of Style in MS-Word template file.

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| スタイル名 | 用途 | フォント名 | 文字  サイズ | 文字列  配置 |
| #表題IPSJ | 表題 | MSゴシック（太字）  Times New Roman | 14pt | 中央  揃え |
| #標準IPSJ | 本文 | MS明朝  Times New Roman | 9pt | 両端  揃え |
| #概要IPSJ | 概要  キーワード | MS明朝  Times New Roman | 8pt | 両端  揃え |
| #著者名IPSJ | 著者名 | MS明朝  Times New Roman | 12pt | 左揃え |
| #見出し1  IPSJ | 節の  見出し | MSゴシック（太字）  Times New Roman | 11pt | 左揃え |
| #見出し2  IPSJ | 小節の  見出し | MSゴシック（太字）  Times New Roman | 9pt | 左揃え |
| #段落番号  IPSJ | 番号付きの箇条書き | MSゴシック（太字）  Times New Roman | 9pt | 両端  揃え |
| #箇条書き  IPSJ | 黒丸の箇条書き | MS明朝  Times New Roman | 9pt | 両端  揃え |
| #脚注参照  IPSJ | 脚注参照用のラベル | MS明朝  Times New Roman | 9pt | － |
| #脚注文字列  IPSJ | 脚注 | MS明朝  Times New Roman | 7pt | 左揃え |
| #文末脚注  参照IPSJ | 文末脚注参照用のラベル | MS明朝  Times New Roman | 9pt | 左揃え |
| #文末脚注  文字列IPSJ | 参考文献の記述など | MS明朝  Times New Roman | 8pt | 左揃え |
| #図表番号  IPSJ | 図表番号の題目 | MS明朝  Times New Roman | 9pt | 中央  揃え |
| #参考文献  一覧IPSJ | 参考文献の番号付け | MS明朝  Times New Roman | 8pt | 左揃え |

　なお，スタイルの設定操作にあたっては，本テンプレートファイルで用意したスタイルの設定が変更されないよう下記にご留意ください．

* 「スタイルの変更」において，「自動的に更新する」のチェックボックスをチェックしないこと（）．
* 「文字/段落スタイルの変更」に関して，「選択箇所と一致するよう更新する（）」を選択しないこと．



図 5　スタイルの設定

Figure 　Configuration of style set.

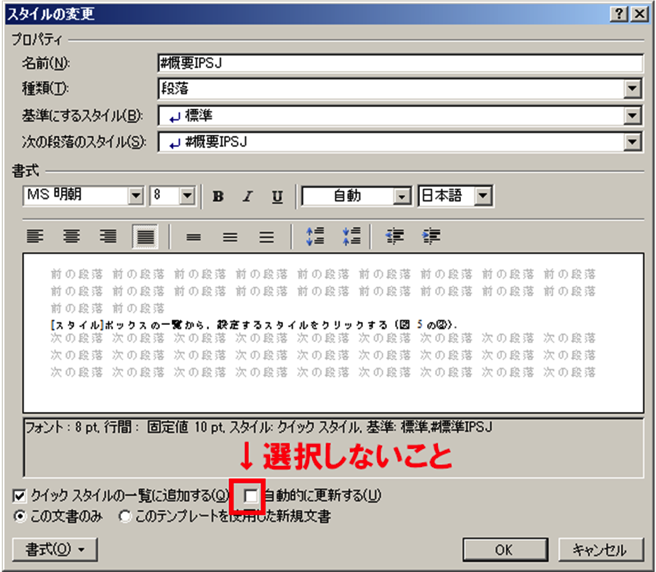


図 6　スタイルの変更

Figure 　Change of style set.

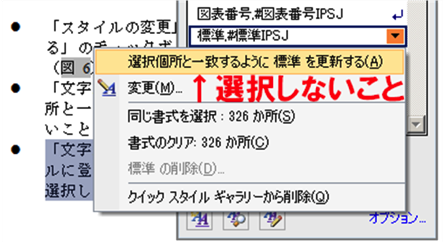


図 7　文字/段落スタイルの変更

Figure 　Change of Character/Paragraph Configuration.

## 表題などの記述（の(a)）

　表題，著者名とその所属，概要を記述します．書式設定については，スタイルを使用して設定するか，表 1の書式設定値を参考にして記述してください．

**表題**

和文ならびに英文の表題を罫線内に記述します．

**著者名と所属**

各著者の所属を第一著者から順に罫線内に記述します．

**概要**

和文ならびに英文の概要を罫線内に記述します．

## 見出し

　節の見出しを記述する場合には，段落前に1行の空白行を記述してください．なお，スタイル「#見出し1 IPSJ」を適用した節の見出しは2行を占めて出力されます．

## 文章の記述

**フォントサイズ**

本文のフォントは，日本語：MS明朝 9pt，英数字：Times New Roman 9ptとします．

**句読点**

句点には全角の「 ． 」，読点には全角の「 ， 」を用います．ただし英文中や数式中で「 . 」や「 , 」を使う場合には，半角文字を使います．「 。（全角）」や「 、（全角）」は一切使わないでください．

**全角文字と半角文字**

全角文字と半角文字の両方にある文字は次のように使い分けてください．

* 括弧は全角の「 （ 」 と「 ） 」 を用います．但し，英文の概要，図表見出し，書誌データでは半角の「 ( 」 と「 ) 」を用います．
* 英数字，空白，記号類は半角文字を用います．ただし，句読点に関しては，前項で述べたような例外があります．
* カタカナは全角文字を用います．
* 引用符では開きと閉じを区別します. 開きには “ を用い，閉じには ” を用います．

## 図表番号の記述

　図表番号の書式設定については，スタイルを使用して設定するか，表 1の書式設定値を参考にして記述してください．なお，本案内の図表番号の記述にあたっては，表，図，数式などに図表番号を自動的に追加するMS-Wordの「図表番号」機能を利用して作成しています．

図 8　オブジェクトのレイアウト

Figure 　Layout of the figure object.

MS-Wordにおける操作は以下の通りです．

* 図表番号を記述する段落にカーソルを置く．
* [参考資料]-[図表番号の挿入] をクリックする（の(a)）．
* [図表番号] ボックスの [ラベル名] 一覧から，設定するラベル（図，表など）を選択した後，[OK]をクリックする（の(b)(c)）．

なお，英文ラベル名（“Figure”, “Fig.”, “Table” など）を使用したい場合には，[ラベル名]（の(d)）をクリックして新たにラベル名を作成した後，上記の操作を行ないます．



図 9　図表番号の設定

Figure 　Configuration of chart number.

## 参考文献リストの作成

　参考文献リスト[[[6]](#endnote-3)]には，原則として本文中で引用した文献のみを列挙します．順序は参照順あるいは第一著者の苗字のアルファベット順とします．なお本案内の参考文献は，MS-Wordの「文末脚注」機能を利用して作成しています．

　MS-Wordにおける操作は以下の通りです．

* 参考文献など文末脚注を挿入したい箇所にカーソルを置く．
* [参考資料]-[脚注] をクリックし、[脚注と文末脚注] ボックスを表示する（の(a)）．
* [脚注と文末脚注] ボックスの [場所] 一覧から「文末脚注」を選択した後，[OK] をクリックする（の(b)(c)）．

## 参考文献の参照

　通常，本文中で参考文献を参照する場合には，参考文献番号が文中の単語として使われる場合と，そうでない参照とでは，使用する文字の大きさが異なります．しかし，本テンプレートファイルにおいて，MS-Wordの「文末脚注」機能を利用した場合には，文字サイズはすべて文中の単語と同一の大きさとなります．

たとえば，

　文献 [[[7]](#endnote-4)]はMS-Word [[[8]](#endnote-5)]に関する総合的な解説書である．

　参照文献の記載例 [[[9]](#endnote-6)][[[10]](#endnote-7)][[[11]](#endnote-8)][[[12]](#endnote-9)][[[13]](#endnote-10)][[[14]](#endnote-11)][[[15]](#endnote-12)]

となります．



図 10　文末脚注（参考文献）の設定

Figure 　Configuration of reference and chart number.

なお，本案内では，MS-Wordの「図表番号参照と文末脚注参照」機能を利用して作成しています．

MS-Wordにおける操作は以下の通りです．

* 参照する図表や参考文献の番号を挿入したい箇所にカーソルを置く．
* [図表]-[相互参照] をクリックする（の(a)）．
* [相互参照] ボックスの [参照する項目] 一覧から「図・表・見出し・文末脚注など」を選択する（の(b)）．
* [相互参照の文字列] 一覧から「番号とラベルのみ（図表の場合）」「見出し番号（見出しの場合）」「文末脚注番号（文末脚注の場合）」をクリックする（の(c)）．
* 「参照先」一覧から該当する項目を選択した後，[OK] をクリックする（の(d)）．



図 11　参考文献／図表参照の設定

Figure 　Configuration of cross-reference.

## 謝辞

　研究報告用原稿においては，謝辞を記載する場合には、参考文献の直前に挿入します．

## 付録

　付録がある場合には，参考文献の直後に引き続いて記述します．

# おわりに

　MS-Wordのテンプレートファイル（.dotx）の使い方を説明しました．基本的な使い方は情報処理学会の「MS-Wordによる研究報告作成のガイド」に準じます．

　もし明白なテンプレートファイルのバグ，もしくは本テンプレートファイルの誤りを発見した場合は，CSS2018事務局([css2018-system@ml.meiji.ac.jp](mailto:css2018-system@ml.meiji.ac.jp))までご連絡ください．

**謝辞**MS-Wordのテンプレートファイルの作成にあたっては，情報処理学会の論文執筆キットのサンプルファイルから大幅に抜粋しました．ここに感謝します．

**参考文献**

1. “Word のスタイルの基礎”. https://support.office.com/ja-JP/article/d38d6e47-f6fc-48eb-a607-1eb120dec563, (参照 2016-02-20).
2. “Officeのサポート“. https://support.office.com/ja-jp/, (参照 2016-02-20).
3. “科学技術情報流通技術基準 参照文献の書き方(SIST 02)”. http://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST02-2007.pdf, (参照 2016-02-20).
4. “Microsoft Office”. https://office.microsoft.com/ja-jp/, (参照 2016-02-20).
5. “Microsoft Office 製品情報“. https://office.microsoft.com/ja-jp/products, (参照 2016-02-20).
6. 桜井貴文. 直観主義論理と型理論. 情報処理, 1999, vol. 30, no. 6, p. 626-634.
7. 野口健一郎, 大谷真. OSIの実現とその課題. 情報処理, 1990, vol. 31, no. 9, p. 1235-1244.
8. 田中正次, 村松茂, 山下茂. 9段数7次陽的Runge-Kutta法の最適化について. 情報処理学会論文誌. 1992, vol. 33, no. 12, p. 1512-1526.
9. Itoh, S. and Goto, N.. An Adaptive Noiseless Coding for Sources with Big Alphabet Size. IEICE Transactions. 1991, vol. E74-A, no. 9, p. 2495-2503.
10. Foley, J. D. et al.. Computer Graphics: Principles and Practice in C. 2nd ed., Addison-Wesley Professional, 1990, 1200p.
11. 千葉則茂, 村岡一信. レイトレーシングCG入門. サイエンス社, 1990, 282p.
12. Chang, C. L. and Lee, R. C. T.. Symbolic Logic and Mechanical Theorem Proving. Academic Press, 1973, 331p.

**付録**

**付録A.1 参考文献リストの作成について**

　本案内では，次のような手順を利用しています．

1. MS-Wordの「文末脚注」機能を利用して参考文献リストを作成します．詳細については，項番「参考文献リストの作成」を参照してください．
2. 文末脚注の参考文献リストをマウスで範囲選択した後，[編集]-[コピー]により複写します．
3. 参考文献の位置に，[編集]-[形式を選択して貼り付け]をクリックし，「貼り付ける形式：テキスト」を選択して貼り付けます（メモ帳に一度貼り付けた後、再度複写し、MS-Wordに貼り付けることでも可能です）．
4. 貼り付け箇所を範囲選択した後，本テンプレートファイルで用意したスタイル「#参考文献一覧IPSJ」を選択します．

【 この位置に改ページを入れ，以降のページを印刷対象外とする 】

1. \* †1 XX大学コンピュータ研究所

   Institute of Computer, XX University

   †2 株式会社YYセキュリティ研究所

   Security Laboratories, YY Corporation.

   【 論文原稿：上記\*の文字書式「隠し文字」 】 [↑](#footnote-ref-1)
2. ) http://www.ipsj.or.jp/journal/submit/style.html [↑](#footnote-ref-2)
3. ) Microsoft，Microsoft Wordは，米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です． [↑](#footnote-ref-3)
4. “Word のスタイルの基礎”. https://support.office.com/ja-JP/article/d38d6e47-f6fc-48eb-a607-1eb120dec563, (参照 2016-02-20). [↑](#endnote-ref-1)
5. “Officeのサポート“. https://support.office.com/ja-jp/, (参照 2016-02-20). [↑](#endnote-ref-2)
6. “科学技術情報流通技術基準 参照文献の書き方(SIST 02)”. http://jipsti.jst.go.jp/sist/pdf/SIST02-2007.pdf, (参照 2016-02-20). [↑](#endnote-ref-3)
7. “Microsoft Office”. https://office.microsoft.com/ja-jp/, (参照 2016-02-20). [↑](#endnote-ref-4)
8. “Microsoft Office 製品情報“. https://office.microsoft.com/ja-jp/products, (参照 2016-02-20). [↑](#endnote-ref-5)
9. 桜井貴文. 直観主義論理と型理論. 情報処理, 1999, vol. 30, no. 6, p. 626-634. [↑](#endnote-ref-6)
10. 野口健一郎, 大谷真. OSIの実現とその課題. 情報処理, 1990, vol. 31, no. 9, p. 1235-1244. [↑](#endnote-ref-7)
11. 田中正次, 村松茂, 山下茂. 9段数7次陽的Runge-Kutta法の最適化について. 情報処理学会論文誌. 1992, vol. 33, no. 12, p. 1512-1526. [↑](#endnote-ref-8)
12. Itoh, S. and Goto, N.. An Adaptive Noiseless Coding for Sources with Big Alphabet Size. IEICE Transactions. 1991, vol. E74-A, no. 9, p. 2495-2503. [↑](#endnote-ref-9)
13. Foley, J. D. et al.. Computer Graphics: Principles and Practice in C. 2nd ed., Addison-Wesley Professional, 1990, 1200p. [↑](#endnote-ref-10)
14. 千葉則茂, 村岡一信. レイトレーシングCG入門. サイエンス社, 1990, 282p. [↑](#endnote-ref-11)
15. Chang, C. L. and Lee, R. C. T.. Symbolic Logic and Mechanical Theorem Proving. Academic Press, 1973, 331p. [↑](#endnote-ref-12)